# 量産系生産管理システム革新事例

菊池正浩*　平河敏秋*
藪下幹根**　池尻　宏*
武藤秀吉**

**要　旨**

三菱電機名古屋製作所では，顧客要求への対応力向上を目指し，需要変動への即応力強化，総合リードタイム短縮による柔軟な生産体制を強化中である。そのためには情報システムの革新が必す(須)であり，1995年から強力に推進中である。

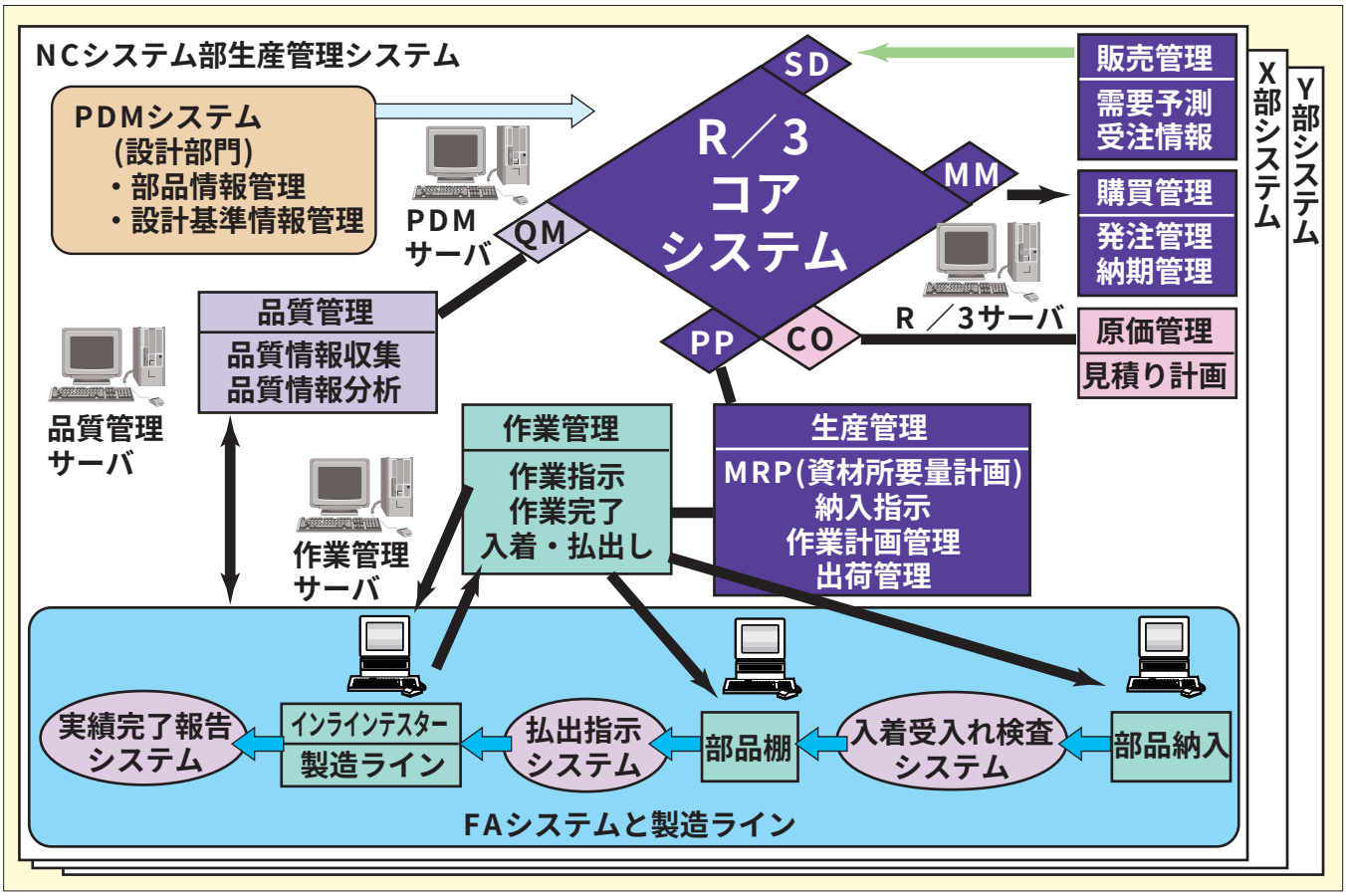
中でもNCシステム部生産管理システムは当社量産系生産管理システムのモデルでもあり，同所では，当該システムを基に他製造部へ積極的な横展開を行っている。

情報システム革新のポイントは，受注から出荷に至る情報処理リードタイムの短縮化，そのための情報統合化とリアルタイム処理機能の強化，EUC(End User Computing)推進による経営情報活用機能強化である。それらを支える先進的なオープンシステムは，統合業務パッケージソフトウェアであるSAP社のR／３をWindows NT環境下で利用しながら，上流のPDM(製品情報管理)システム，下流の作業管理システムと連携して構築され，97年３月から稼働を開始した。

稼働に至るまでには，発展途上中であったWindows NTの成熟度の問題，それに関連したR／３の完成度の問題，業務システムとしての追加機能強化，生産手配データ処理性能改善など数々の問題が発生したが，困難の末に解決することができた。

本稿では，当該システム構築内容を基に，当社量産系生産管理システムの革新事例を詳細に述べる。

(注)“SAP”“R／３”は，SAP Aktiengesellshaftの登録商標である。
“Windows NT”は，米国Microsoft Corp.の登録商標である。
その他，会社名及び製品名はそれぞれの登録商標又は商標である，




**量産系生産管理システム構成**

R／３のSD(販売管理)／MM(在庫／購買管理)／PP(生産管理)の各モジュールをコアとし，設計基準情報を管理するPDMシステム，製品製造のためのFA(Factory Automation)／製造ライン用作業管理システムと連動した量産系生産管理システムを構築した。上図はNCシステム部の例であり，最も色の濃い部分にR／３を利用した。

*情報システム技術センター　**名古屋製作所